

# 晩婚・晩産化と就業・家族関係の検証

—日本・台湾の比較から—

The Effects of Female Labor and Family

on Late Marriage and Parenting

—Comparative Analysis of Taiwan and Japan—

寺村絵里子 (明海大学)

孔祥明 (世新大学)

Eriko Teramura (Meikai University)

Hsiang-Ming Kung (Shih Hsin University)

eriko@meikai.ac.jp

本報告は、女性の晩婚・晩産化と就業行動及び家族関係の関連を検証するものである。東アジアの中でも極低出生と呼ばれる日本及び台湾を対象とし、なぜ両国において低い出生率が続くのかを探る。あわせて、両国間の同一性と差異を知ることにより、日本女性の出生行動の特徴を検討する。要因としては、二つの要因を主に検討する。

第一に検討するのは女性の仕事である。女性の就業継続が晩婚・晩産化を引き起こしているかをデータで調べ、また日本・台湾の同一性と差異を検証する。

第二に検討するのは家族関係である。日本・台湾ともに家族規範が強く、特に台湾は義父母との関係も強固であるといわれている。これらの家族規範が女性の仕事と出生にどのような影響をもたらすのかを検証する。

使用するデータはEASS (East Asian Social Survey) の日本・台湾票及び台湾のパネル・データ (Panel Study of Family Dynamics in Chinese Societies) である。また、対象とする女性は大都市圏に居住する高学歴女性であり、女性のライフコースと就業及び家族関係との軌轍を検証する。